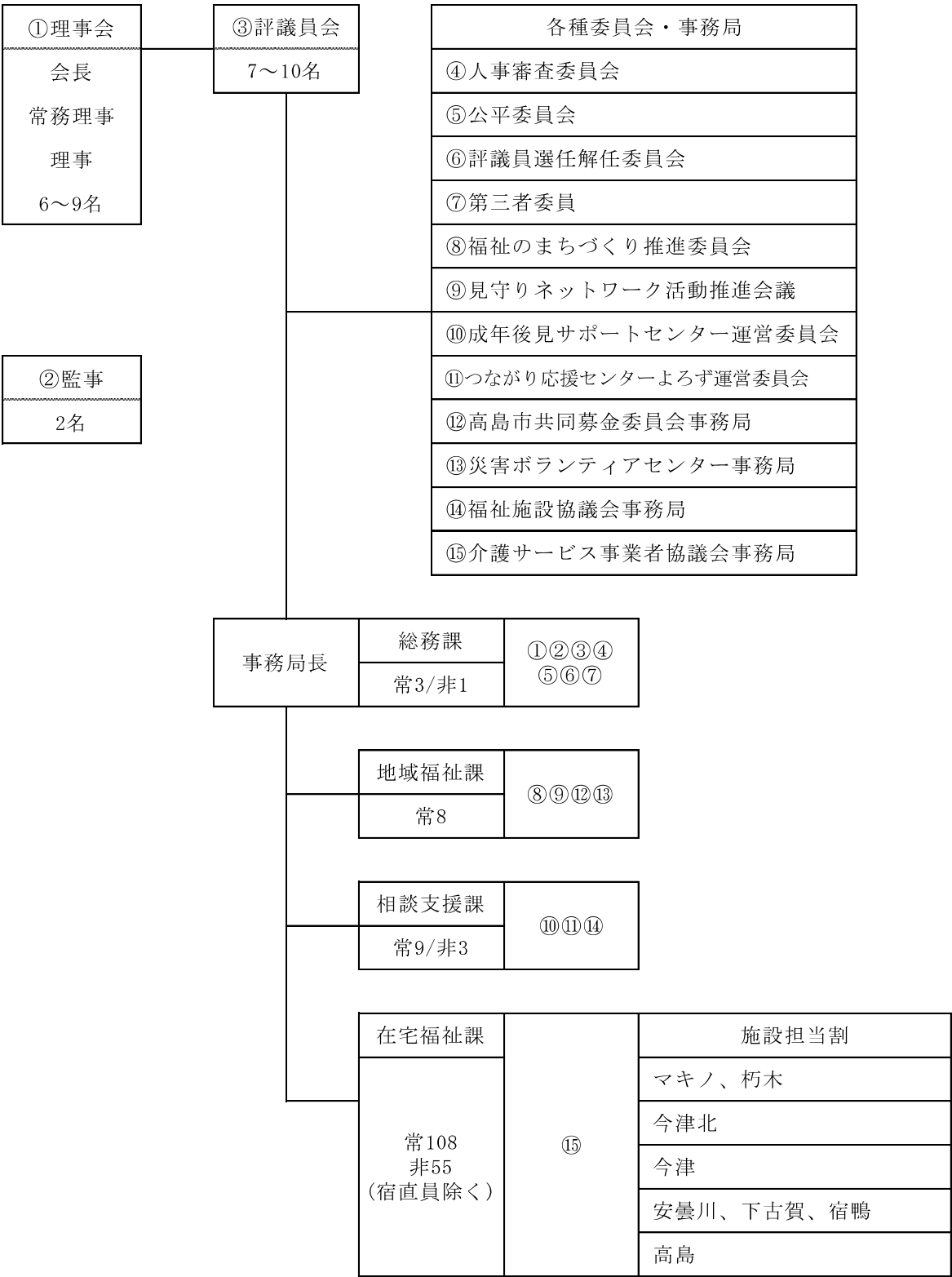

令和4年度 事業報告書

社会福祉法人 高島市社会福祉協議会

目 次

◇ 事業推進体制	1
◇ 総括	2
◇ 総務課（法人本部）	3
◇ 地域福祉課	9
◇ 相談支援課	19
◇ 在宅福祉課	26

令和4年度 社会福祉法人高島市社会福祉協議会 事業推進体制（事務機構図）



※常勤128名、非常勤59名（令和5年3月31日現在）

令和4年度社会福祉法人高島市社会福祉協議会事業報告

I 総括

本年度は、『持続可能な経営基盤の構築』、『第三次高島市地域福祉推進計画の推進』、『事業継続計画の策定』、『指定管理期間が満了となる施設の対応』を重点事項として、事業に取り組みました。

持続可能な経営基盤の構築では、組織や財政基盤の強化、効率的な事務規律の確立等を図る観点から、新会計システムにより、各事業拠点の収支状況をより明確にするとともに、財務会計事務はもとより管理会計の定着に努めました。

また、介護保険サービス事業の経営強化が不可欠なことから、現状の課題を整理し、「5年後のあるべき姿」を達成するための方策をまとめた「第1期介護保険事業経営計画（2023年度～2027年度）」を策定しました。

第三次高島市地域福祉推進計画の推進では、「住民参加の促進」、「住民と専門職の協働」、「地域拠点づくり」の3つの視点で取り組みを進め、コロナ禍で集落や各種団体の活動等の自粛傾向が続く中、ズームを活用するなど様々な工夫を凝らしながらこんだん会や情報交換会、講座を開催し、アフターコロナに向けて人と人のつながりづくりに努めました。

また、コロナ禍でより深刻となった生活困窮者の自立支援のため、相談支援や家計改善支援するとともに、資金貸付事業等については、相談者に寄り添い課題解決に向けた支援をしました。

頻発する自然災害や通所介護事業所の閉所を余儀なくされた新型コロナウイルス感染症への対応などを踏まえ、各事業所で事業継続計画の策定に着手しました。

指定管理期間が満了となる「はあとふるマキノ」については、マキノ地域の介護サービス事業を担ってきた本会の役割を踏まえ、収支改善を図り、引き続き指定管理者として施設運営にあたることとしました。

また、4月から新たな指定管理期間が始まりました新旭総合福祉センター「やすらぎ荘」については、令和5年度に子どもや家庭に関する相談に包括的に対応する総合支援拠点施設として市が整備することから、本年度末で指定管理期間が終了しました。

Ⅱ 総務課（法人本部）

（１）組織の強化

人員確保のため、ハローワークをはじめ、滋賀県福祉人材センター、本会ホームページ等を活用した求人を行い、来春卒業予定者の求人も併せて行いましたが、正規職員としては、内部登用者１人、介護支援専門員１人、看護師１人の採用に留まりました。

また、在職者に対しては、自己申告書の提出を求め、人事考課をととして職員エンゲージメントの向上に努めました。

（２）財政基盤の確立

新会計システムを活用し、拠点区分ごとに財務会計事務はもとより管理会計の定着に努めました。

（３）効率的な事務規律の確立

既存のグループウェアを活用し、電子決裁と報告ができるシステムを導入しました。

また、管理職以上の決裁が、迅速に行えるよう体制を整えました。

１．会務の運営

１）理事会

回	開催日時	議題等	可否等
1	6/3(金) 9:55~ 11:50	令和３年度事業報告について	可決
		令和３年度決算について	可決
		令和４年度第１次資金収支予算の補正について	可決
		評議員会の招集について	可決
		社会福祉充実残額の算定結果について	報告
		介護保険事業等の実績について	報告
2	11/14(月) 13:20~ 15:55	諸規程の一部改正について	可決
		中間監査の結果について	報告
		会長及び常務理事の自己の職務の執行状況について	報告
		介護保険事業等の実績について	報告
		介護保険事業経営計画について	報告
3	1/4(水) 書面決議	理事の辞任に伴う補欠理事候補者の選出について	可決

4	3/23(木) 13:30～ 17:10	令和4年度第2次資金収支予算の補正について	可決
		高島市社会福祉協議会きらり高島運営規程（訪問入浴介護・介護予防訪問入浴介護）の廃止について	可決
		社会福祉法人高島市社会福祉協議会定款変更について	可決
		諸規程等の改正について	可決
		高島市成年後見サポートセンター運営委員会設置要綱の廃止について	可決
		令和5年度事業計画について	可決
		令和5年度資金収支予算について	可決
		評議員会の招集について	可決
		令和5年度役員賠償責任補償特約への加入について	可決
		高島市指導監査の結果について	報告
		会長及び常務理事の自己の職務の執行状況について	報告
		介護保険事業等の実績について	報告
		介護保険事業経営計画について	報告

○理事協議会

回	開催日時	議題等	可否等
1	8/29(月) 9:50～ 11:20	高島市公の施設（はあとふるマキノ）指定管理者の募集について	協議
		新型コロナウイルス感染症の状況について	報告
		各事業の進捗状況について	報告

2) 監事の監査

回	開催日時	内容	意見等
1	5/20(金) 10:00～ 15:20	令和3年度事業報告ならびに決算について	適正
2	11/1(火) 9:50～ 14:50	令和4年度上半期の業務ならびに会計監査について	適正

3) 評議員会

回	開催日時	議題等	可否等
1	6/20(月) 13:30～ 14:32	令和3年度事業報告について	可決
		令和3年度決算について	可決
		令和4年度第1次資金収支予算の補正について	可決
2	1/16(月) 書面決議	理事の辞任に伴う補欠理事の選任について	可決
3	3/24(金) 13:30～ 14:50	令和4年度第2次資金収支予算の補正について	可決
		社会福祉法人高島市社会福祉協議会定款変更について	可決
		令和5年度事業計画について	可決
		令和5年度資金収支予算について	可決

2. 第三者委員

委員氏名	公平性、中立性を確保できる者から選出 (任期：令和4年4月1日～令和6年3月31日)	任用区分
足立義弘	公益社団法人滋賀県社会福祉士会の推薦	重任
吉田和浩	一般社団法人滋賀県介護福祉士会の推薦	新任
大藤耕平	高島市民生委員児童委員協議会連合会の推薦	重任

回	開催日時	内容
1	1/17(火) 10:00～ 11:30	前回の会議以降、令和4年12月までに受付けた苦情(2件)、要望等の報告(3件)及び意見交換

3. 採用計画の策定と募集戦略の立案

＜募集状況＞

求人票 区分	職種	雇用 形態	方法			
			ハローワーク	人材センター	ホームページ	チラシ
一般	看護師	正規 非常勤	○	○	○	○
	介護支援専門員	正規	○	○	○	○
	ケアワーカー	正規				
	ホームヘルパー	常勤嘱託 非常勤	○	○	○	○
大卒等	ケアワーカー	正規	○	○	○	—
高卒			—	—	—	—

※高卒求人は、指定校に依頼後、指定校から推薦を受ける。

4. 人事考課の実施

実施月	種別	対象	内容
4 月	目標管理	管理職及び 地域福祉課員	当年度重点取り組みを柱とした目標設定を行い、取り組みを開始
1～2 月	人事考課	正規職員	令和 4 年度の考課実施後、人事審査委員会で各人の評語を確定し、フィードバック面接により次期に繋げた。

5. 研修等の実施

実施期間	区分	対象	内容
7 月 4 日 ～ 7 月 15 日	交通安全	全職員	保険会社の WEB 配信等と話し合い ①交通ルールの理解が事故防止の第一歩 ②事故による企業の損害と責任 ③本会自動車事故分析レポート等の配布 ④話し合い
8 月 2 日 ～ 8 月 31 日	人権	全職員	DVD の視聴と話し合い ①「違い」を「力」にするために～職場のコミュニケーションのヒント ②話し合い
各研修共に、事業所単位の話し合いの時間は、次のサイクルを意識した。 学んだ内容を元に、自分たちの課題を出し合い認識 → 課題に対する自分達の目標を設定 → 目標達成のために何を実践するのかを行動レベルに落とし込む → 行動の実践と実践の継続による目標の達成			
7 月 15 日 ～	情報セキュリティ	全課	前年度の評価結果に基づき、指示事項を発信し、セキュリティの向上を図った。

6. 施設の維持管理

1) 指定管理施設

在宅介護サービスセンター「はあとふるマキノ」は、令和 4 年度末で指定管理期間が満了となりましたが、引き続き指定管理者として指定されました。

	施設名称	地域	協定期間
1	在宅介護サービスセンター「はあとふるマキノ」	マキノ	平成 30 年度から令和 4 年度までの 5 年間
2	新旭総合福祉センター「やすらぎ荘」	新旭	令和 4 年度 1 年間
3	安曇川デイサービスセンター	安曇川	令和 4 年度から令和 8 年度までの 5 年間
4	高島デイサービスセンター	高島	令和 4 年度から令和 8 年度までの 5 年間

2) 自施設

	施設名称	地域	事業開始年月
1	デイサービスセンターしふくの杜	今津	平成 21 年 10 月
2	えがお屋本舗宿鴨店	高島	
3	えがお屋本舗下古賀店	安曇川	平成 24 年 5 月
4	はあとふる朽木	朽木	平成 26 年 5 月
5	きらり今津 えがお屋本舗上弘部店	今津	平成 29 年 4 月 平成 29 年 5 月

7. 福利厚生

内容	対象	実施時期等
定期健康診断	全職員	9/6、8、20、27、29 (5 日間)
健診結果の医師の意見聴取	全職員	11/16、21 (2 日間)
医師の指示者に対する保健指導	18 名	11/17、18、21 (3 日間)
インフルエンザ予防接種	全職員	11/14、15、17、24 (4 日間)
定期健康診断(2 回目)	夜勤者	3/10、15 (2 日間)
慶弔規程の適用	全役職員	結婚祝い 1 人 出産祝い 1 人 弔慰 13 人
高島市勤労者互助会への加入	希望職員	加入者 71 人

8. 広報活動

発行月	名称	内容	配布先
6	しふくのふくし 通巻 91 号	令和 4 年度事業計画・予算、 各種事業活動等	全戸
9	しふくのふくし 通巻 92 号	令和 3 年度事業報告・決算、 各種事業活動等	
1	しふくのふくし 通巻 93 号	防災減災の取組、各種事業活動等	
7	職員情報誌きらり 通巻 127 号	新規採用職員の紹介等	全職員
11	職員情報誌きらり 通巻 128 号	事業所特集等	
1	職員情報誌きらり 通巻 129 号	事業所特集等	

通年	ホームページ	法人情報及び各種事業活動等	WEB 公開
----	--------	---------------	-----------

9. その他

開催月	区分	内容
6/23(木)	安全・安心推進委員会	36 協定、各事業場の目標発表、危険箇所点検シートの完成
9/22(木)		各事業場での取り組み状況の共有等
1/19(木)		1 年間の振り返りと次期目標の立案
8/4(木)	健康保険・厚生年金保険の適用拡大への対応	対象となる非常勤 A の職員 21 人に対し、本制度の周知及び今後の働き方についての確認を行い、10月1日からのスタートに繋げた。

Ⅲ 地域福祉課

(1) 第三次高島市地域福祉推進計画の推進

「福祉のまちづくり推進委員会」を2回開催し、「住民福祉活動計画」も含めて「地域福祉推進計画」の進捗状況の確認をしました。また、小地域福祉活動の現状と変化する生活課題に対して住民自らが課題解決に取り組む新たな事例の紹介や with コロナでの居場所や拠点を通じたつながり直しについて協議しました。

(2) 区・自治会・小地域における活動の強化

市から6地域の生活支援コーディネーター業務を受託し、小地域の福祉活動の活性化に取り組みました。福祉推進委員会を対象に、つながり続ける事の大切さやコロナ禍での活動のヒントとなるよう「つどい見守り情報交換会」を開催しました。また、各住民自治協議会との連携を深めるため、役員会や部会に参加しました。

(3) 災害支援体制の強化

万一の大規模災害時に備え、災害支援体制の強化を図るため、市担当課や高島市災害ボランティア活動連絡協議会と協議し、「災害ボランティアセンター運営マニュアル（案）」を作成しました。

また、活動者の養成講座を開催するとともに、災害ボランティアセンター運営訓練を実施しました。

1. 高島市地域福祉推進計画の進行管理と評価

1) 高島市福祉のまちづくり推進委員会の開催（年2回）

開催日	参加人数	内容
9月8日	41人	各住民福祉協議会の今後の活動取り組みについてグループワークと共有
2月16日	36人	小地域福祉活動の現状、安曇川住民福祉ネットワークの取組み、未来のジャムについての情報提供 「with コロナでの居場所や拠点を通じたつながり直し」についてグループワークと共有

2) 住民福祉協議会代表者会議の開催（年2回）

6地域の代表者と副代表者を対象に、各住民福祉協議会の取り組みの進捗や課題を共有し、地域福祉推進計画の推進に向けて、情報交換しました。

開催日	参加人数	内容
8月9日	10人	令和4年度事業計画及び事業推進体制について各地域の活動報告と意見交換
2月2日	11人	各地域の活動報告と意見交換

3) 見守りネットワーク活動推進会議の開催（年2回）

福祉のまちづくり推進委員、民生委員児童委員、生協、行政関係課、警察等の関係者が、見守りネットワーク活動を推進するため、協議しました。

開催日	参加人数	内容
9月30日	12人	前年度の活動の振り返り 協働実践につながるアイデア出し
2月2日	12人	小地域の見守りネットワーク活動の報告 令和5年度の見守りネットワーク活動について意見交換

2. 生活支援コーディネーター業務の受託

市から業務委託を受け、6地域の第2層生活支援コーディネーターとしてコミュニティワーカー業務と一体的に活動しました。

内容	○支援ニーズ、関係団体、社会資源の把握 地区カルテ、集落カルテの作成 ○地域の関係者のネットワーク構築 地域会議（保健師との連携）、くらし連携会議(専門職連携)月1回 セーフティネット連絡会（住民と専門職の連携）地域ごとに年2回開催） ○生活支援コーディネーター定例会（月1回） ○第1層協議体会議（8月10日、2月20日） ○生活支援体制整備事業研修会の参加 生活支援コーディネーター学習・情報交換会（12月19日）
----	---

3. 区・自治会における福祉活動支援

1) 区・自治会地域を対象とした活動支援

① 住民福祉こんだん会の開催

6地域を更に分割し、第三次高島市地域福祉推進計画の説明、市の現状と課題「フレイル予防対策と認知症の発症について」等の説明をしました。

地域	開催日	参加人数
マキノ	5/18、19、24	46人
今津	5/12、18（2回）、19、20、26	106人
朽木	5/10（2回）、11	30人
安曇川	5/13、16、17、23	68人
高島	5/17、26、27	61人
新旭	5/13、20、27	35人

② つどい見守り情報交換会の開催の実施

福祉推進委員長等を対象に、高島健康福祉事務所長から、新型コロナウイルス感染症の現状と課題について説明を受け、地域の福祉活動の必要性について考える機会を設けました。

多くの人が参加しやすいように安曇川公民館をメイン会場とし、今津東コミュニティセンターと朽木公民館を ZOOM を活用したサブ会場としました。

開催日	参加人数	内容
9/15	79 人	「新型コロナウイルス感染症」を理解し、地域社会活動をみんなで考えよう 講師：高島健康福祉事務所 松原峰生所長

③ 福祉推進委員会活動の手引き・ふくしの出前講座パンフレットの作成

地域のつながりを絶やさない活動が進められるよう「つどい・見守り・助け合い」の取り組み例や、活動者の声、ふくしの出前講座を掲載し、福祉 3 役（区長・自治会長、福祉推進委員長、民生委員児童委員）に配布しました。

種類	部数	内容等
福祉推進委員会活動の手引き	800 部	委員会活動が必要な理由 活動を発展させるための委員会づくりのコツ 活動取り組み例、出前講座等

④ 見守りネットワーク活動推進会議の開催

※ 1（3）を参照

⑤ 高島ワークキャンプ（大学との連携による集落支援）の実施

立命館大学生が、地域住民と協力して活動できるようコーディネートし地域住民と学生の交流を図りました。

開催日	参加人数	内容
2 月 23 日	10 人	○ 椋川区寺院境内の除雪 ○ おっきん椋川交流館で住民と昼食づくり、わら細工体験で交流
2 月 24 日	15 人	○ 高島市災害ボランティア活動連絡協議会女性部とアイラップを使った調理実習 ○ 学生の防災の取り組みと災ボラの取り組みの情報交換
2 月 24 日	20 人	○ 在原で神社の雪かき、地域住民との交流 ○ たらいち邸で先輩の話、シイタケの菌打ち ○ マキノまちづくり協議会交流会に参加
2 月 25 日	20 人	○ 小荒路サロンで学生の考えたゲームで交流（観光地パズル、スマホの若返りアプリ、ボッチャ）

- 2) ふくしのまちづくり助成金の交付（財源：社協会費、共同募金）
区・自治会の福祉活動支援として、助成金を交付しました。

助成額	6,578,000 円	助成先	150 区・自治会
-----	-------------	-----	-----------

3) 民生委員児童委員協議会との連携

① 単位民生委員児童委員協議会定例会への参加

各担当者が、担当地域の定例会に出席し、顔の見える関係づくりと情報交換をしました。

② 歳末贈呈品見守り事業の実施

民生委員児童委員協議会と連携し、80歳以上の高齢者に対し、昆布茶や緑茶を贈呈する見守り訪問活動を実施しました。

地域	マキノ	今津	朽木	安曇川	高島	新旭	計
対象人数	218 人	327 人	81 人	339 人	169 人	267 人	1,401 人

4. 日常生活圏域における地域拠点づくりを推進する体制整備

1) 地域拠点づくり推進会議の開催

2) 「地域拠点づくりの手引き」の作成

地域拠点づくりを進める体制づくりについて、介護サービス事業者協議会の研修会で説明しました。また、安曇川地域では、介護サービス事業所を拠点にする話し合いを進めました。

5. 住民福祉協議会の活動促進

1) 6 地域住民福祉協議会の組織支援、活動支援

① 住民福祉協議会の事務局運営

各地域の活動計画に基づき、担当のコミュニティワーカーが支援をしました。

マキノぬくもり福祉ネットワーク	
内容	運営委員会の開催（月 1 回） セーフティネット連絡会の開催（10 月、2 月） 地区ボランティアセンターの開催（月 2 回） 出張ぬくもりひろばの開催（10 回） ぬくもり食堂の開催（月 1 回）

今津ふくしの会	
内容	コア会議、定例会の開催（月 1 回） ふくし双六の配布 おっきん棕川での共同募金活動（11 月） セーフティネット連絡会の開催（10 月、2 月）
朽木住民福祉協議会	
内容	定例会の開催（月 1 回） 広報紙「あいの郷通信」の発行（月 1 回） くつき暮らしなんでも相談会（11 月） 防災講座（5 月、7 月） 災害時要配慮者の避難支援学習会（3 月）
安曇川住民福祉ネットワーク	
内容	三役会の開催（2 回） 定例会の開催（月 1 回） 育ちあい部会の開催（4 回） 支え合い部会の開催（4 回） 安中・カフェの実施（11 回）
高島住民福祉ネットワーク	
内容	定例会の開催（月 1 回） 配食活動（月 2 回） カフェの開催（月 1 回） 集いの場の開催（週 1 回）
新旭住民福祉協議会	
内容	定例会の開催（月 1 回） 新旭子ども食堂運営委員会と子ども食堂の開催（月 1 回） 子ども食堂特別編（夏休み企画）（8 月） 新旭ふくしまつりの開催（9 月） ふれあい農園活動（5 回） 歳末もちつき大会（12 月） 広報紙「たいよう」の発行（1 回）

② 地区ボランティアセンター機能強化・コーディネーター育成

地区ボランティアセンターの機能強化を図るため、新たな参加者の募り方やコーディネーター育成について、地区ごとで話し合いました。

③ ボランティア養成講座の開催

災害ボランティア養成講座を 3 回開催しました。

2) セーフティネット連絡会の開催

各住民福祉協議会との共催により、地域のニーズや課題に沿ったテーマを設定し、連絡会を開催しました。

地域	開催日	参加人数	内容
マキノ	10月26日	30人	認知症課題から考える見守りネットワーク活動の推進
	2月14日	34人	2年後のマキノ地域に向けての取り組み
今津	10月14日	35人	見守りネットワーク活動の推進 栄区福祉推進委員会事例発表
	2月21日	36人	一人ぼっちのない地域づくり 話題提供 社会福祉課くらし連携支援室 清水潤平氏
朽木	10月3日	14人	令和3年度大雪の振り返りと今後の対策について
	1月13日	19人	災害が起こった際に、朽木でどう取り組むか、朽木の資源はなにか、もしもの時の備え
安曇川	12月15日	31人	生きづらさをかかえる子ども若者～安曇川町の現状を知る～
	2月22日	21人	住民福祉ネットワークが活動とし具体的にできること
高島	11月8日	21人	高島地域にこんな居場所があったらいいな
	2月14日	25人	高島地域の居場所づくりについて 第1回目の振り返り 勝野地域以外の居場所づくりについて
新旭	11月24日	21人	子ども食堂開設から5年 子どもたちのためにできる事を考える
	1月17日	16人	子どもたちのためにできる具体的に取り組めること

3) 活動助成金の交付

助成額	840,000 円	住民福祉協議会活動助成（6 地域）
助成額	189,912 円	住民福祉協議会特別助成 （朽木、高島拠点支援）

4) 住民自治協議会との連携

各住民自治協議会の役員会や部会に参加し、事業内容を把握するとともに、本会の事業や住民福祉活動計画との関連について説明を行い、連携を深めました。

地域	マキノ	今津	朽木	安曇川	高島	新旭
会議回数	29 回	10 回	29 回	4 回	6 回	13 回

6. 住民参加の促進

1) ボランティア活動の支援

① 市域でのボランティア活動の相談・マッチング支援

住民や団体からのボランティアの要望に対し、マッチングを行い、保険手続きの支援をしました。特に、傾聴ボランティア活動については、住民ニーズを聞き取り、活動グループとのマッチング支援をしました。

② 地区ボランティアセンターとの連携

介護施設等で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生したことから、地区ボランティアセンターにナイロン袋を使った防護ガウンづくりを呼びかけ、協力を得ました。

2) 福祉学習の推進

① 福祉学習の意識醸成

小中学校、高等学校等を対象に、当事者や地域住民の参加、協力を得ながら学習を実施しました。

開催回数	年間 65 回（市内小学校、中学校、高校）
内容	・ 民生委員活動について ・ 視覚障害、聴覚障害の理解 ・ 高齢者、認知症の理解 ・ 人権、障害者差別について ・ バリアフリー、ユニバーサルデザインについて ・ 福祉と SDG s について ・ しがマイタイムラインについて ・ 災害時に高校生ができること

② 福祉学習プログラムの作成

「ふだんのくらしのしあわせ」を基本に、福祉学習の必要性や学習対象者等を捉え直し、高島市社協らしい福祉学習プログラムを作成するため、日本福祉教育・ボランティア学習学会の研修会に参加し、全社協のテキストに基づく福祉教育の考え方を学びました。

7. 災害支援体制の強化

1) 災害ボランティアセンターの機能強化

① 災害ボランティアセンター運営マニュアルの作成

市担当課や高島市災害ボランティア活動連絡協議会と協議し、「災害ボランティアセンター運営マニュアル（案）」を作成しました。

開催日	参加人数	内容
10月31日	9人	平成25年台風18号災害での災害ボランティアセンター運営の振り返りと災害ボランティアセンター運営マニュアル作成の経緯説明 マニュアル案の説明
12月21日	5人	高島市地域防災計画との整合性について、市防災課および社会福祉課との打合せ
1月25日	11人	前回会議からの修正点説明と他機関との連携協働について意見交換
2月21日	12人	修正後マニュアル案について意見交換

② 災害ボランティアセンター運営訓練の実施

地域福祉課と災害ボランティア活動連絡協議会を中心に、災害ボランティア養成講座受講者を交えて訓練を実施しました。

開催日	参加人数	内容
11月13日	43人	ニーズ班、マッチング班、資機材班、総務班に分かれて運営訓練を実施

2) 災害ボランティア活動連絡協議会の運営支援（事務局）

平時の地域防災力の向上、災害時におけるボランティア活動の強化等を図るため、連絡協議会の事務局として運営を支援しました。

① 定例会等の支援

内容	定例会、役員会の開催（月1回） 防災カフェの開催（3月） 立命館大学生（高島ワークキャンプ）の受け入れ
----	---

② 災害ボランティア養成講座の開催

住民の防災意識を高めるとともに、災害ボランティア活動連絡協議会への参加者を増やすことを目的として、講座を開催しました。

開催日	参加人数	内容
10月16日	26人	支え合いのつながりで災害にも強いまちづくりを考える 講師：日野ボランティアセンター 山下弘彦氏
11月5日	26人	災害ボランティアセンターの今 講師：NPO 法人さくらネット代表 石井布紀子氏
11月13日	38人	災害ボランティアセンター設置運営訓練

③ 防災出前講座の開催

区・自治会や福祉推進員会、生協組合員、中学校等から依頼を受け、出前講座を25回開催しました。（延べ参加者数 1,287 人）

8. その他

1) 会員の募集

住民主体の地域福祉を推進することを目的に、区・自治会を通じて社協会員の募集および会費納入依頼をしました。

納入金額	8,394,959 円 <8,390 戸／15,441 戸>
------	--------------------------------

※前年度 8,670,624 円 <8,527 戸／15,681 戸>

2) 高島市共同募金委員会の事務局運営

① 理事会、審査会等の開催

種類	内容
理事会	7月 令和3年度事業報告・決算報告
監事会	3月 令和5年度事業計画・予算
審査会	6月 地域のきずな助成 7月 たかしま未来助成 10月 年末年始地域助け合い助成

② 共同募金運動

10月1日から3月31日を運動期間として、募金活動（一般募金、歳末助け合い募金、赤い羽根見守り募金）をしました。

募金額が減少傾向にあるため、今年度は新たにオリジナルバッジを作成し、イベント募金に取り組みました。

募金総額 11,738,044 円 （前年度 11,669,089 円）

③ 助成金交付

地域の課題解決を目指す多様な団体へ助成し、地域福祉の推進を図りました。

助成金種類	団体数	助成金額
地域のきずな助成	44 団体	768,000 円
たかしま未来助成	4 団体	340,000 円
年末年始地域たすけあい活動助成	12 団体	218,000 円

④ 募金百貨店プロジェクトの拡大と協賛事業者の交流

募金運動への参加事業者の拡大や協賛事業者同士の関係性を高める方法について検討しました。

開催日	参加人数	内容
10 月 20 日	8 人	○小地域における見守りネットワーク活動の報告 ○プロジェクト紹介チラシの作成
11 月 5 日	11 人	○次年度の事業計画の説明 ○チラシ・リーフレット案の検討

Ⅲ 相談支援課

(1) 生活困窮者支援のための関係機関との連携の促進

よろず運営委員会や課題別ネットワーク会議、相談窓口職員連絡会等の開催を通じて、関係機関との課題共有や連携を進めました。

また、高島市福祉施設協議会を通じて、市内福祉施設事業所への「よろず相談窓口」の設置と「連携窓口担当職員」の配置を進めるとともに、本会各事業所にも窓口を開設し、担当職員を配置しました。

(2) 「高島市成年後見サポートセンター」の機能強化と法人後見受任の推進

権利擁護支援の機能強化に向け、次年度から新たに多機関協働事業を受託することで高島市成年後見サポートセンターの体制強化を図り、市と中核機関と地域連携ネットワークを共同運営することとしました。

法人後見受任については、新たな受任の打診等がなく、受任件数の増加はありませんでした。

(3) 新たな支援のあり方の検討

一人暮らしや夫婦のみの高齢者世帯等が不安なく暮らしていける仕組みを検討していくため、市の関係部署とコアメンバー会議を立ち上げました。

また、市内の病院や高齢者入所施設に向け「身寄りのない方の支援に関する課題抽出アンケート調査」を実施し、現状把握と課題整理を進め、コアメンバー会議において共有しました。

1. 生活困窮者自立支援のための相談支援、事業

1) 自立相談支援事業

① 生活困窮者の自立に向けた相談支援の実施

新規相談受付件数は、113件で新型コロナウイルス感染症流行前の水準に戻りました。プラン作成は、40件でした。

新規相談受付件数	113 件	プラン作成件数	40 件
----------	-------	---------	------

② つながり応援センターよろず運営委員会

相談から把握される生活困窮者の状況等を関係機関と共有し、必要な取り組みや連携について、協議しました。

開催日	7月26日、2月16日
内容	コロナ禍における相談支援状況報告 引きこもり支援の状況報告 子育て世帯の支援について意見交換

2) 家計改善支援事業

新規相談受付は、71件でした。多重債務や市税等の滞納、生活費の不足や特例貸付利用後の行き詰まり等による相談が、多く見られました。改善プラン作成は、16件でした。

新規相談受付件数	71 件	家計改善プラン作成件数	16 件
----------	------	-------------	------

3) 子どもの生活・学習支援事業

① 子どもの居場所（フリースペース）の運営支援

市内7カ所で週1回フリースペースを実施し、困窮する世帯の子どもへの生活支援や学習支援をしました。

開設数	7カ所	開催回数	273回
利用者数	20人	専門員・ボランティア数	35人

② 子どもの居場所運営会議

フリースペースを運営する施設管理者、専門員と子ども分野の相談支援機関が、フリースペース運営の課題やこれからの取り組みについて、意見交換をしました。

開催日	10月31日
内容	フリースペースの活動報告 意見交換「わがまちのフリースペースの良さを深める」

③ 子どもの居場所利用支援検討会議

対象児童をフリースペースにつなぐ支援機関と、フリースペースの運営状況や利用児童の状況、また新規利用候補者の検討等を行いました。

開催日	5月27日、7月5日、12月6日、3月16日
内容	事業運営状況および利用児童の支援状況確認 新規対象利用者の受入検討 利用終了予定者の状況確認

④ 子どもの貧困対策情報交換会

行政、教育、福祉関係機関と地域の活動者やボランティアを対象に開催し、子どもの支援に市民が関わり、活動する意義や価値について学び、それぞれができる支援や活動について話し合いました。

開催日	11月30日	参加人数	51人
内容	○講演 「子どもたちの未来のために、私たちができるまちづくり」 講師：認定 NPO 法人 PIECES 斎典道 氏 ○取組紹介 ①新旭子ども食堂、②親子路上あそび、 ③地域学校協働活動 ○意見交換 「子どもたちの未来について、地域で大切にしたいこと」		

4) 生活困窮者のための共助の基盤づくり事業

① 相談窓口職員連絡会

相談支援機関や相談を受ける機会のある職員等が、関係機関同士の関係づくりのためのワークショップや、生活困窮を生む社会的背景について学びました。

第 1 回			
開催日	10 月 21 日	参加人数	39 人
内容	講義とワークショップ「仕事に役立つ！連携がスムーズになるコミュニケーション」 講師：夢コラボ主宰 松尾弥生 氏		
第 2 回			
開催日	3 月 8 日	参加人数	54 人
内容	講演「支援の現場から～伴走して支えるということ～」 講師：NPO 法人抱樸 理事長 奥田知志氏		

② 福祉施設事業所への「よろず相談窓口」設置と「連携窓口担当職員」配置

高島市福祉施設協議会会員施設事業所に働きかけ、市内9法人21施設事業所が協力事業所として窓口を開設し、担当職員を配置しました。

また、本会各事業所にも設置を進め、10事業所に窓口を開設し担当職員を配置しました。

③ 緊急支援物資による支援のネットワークづくり

高島市福祉施設協議会会員施設事業所に働きかけ、市内7法人20事業所が協力事業所となりました。

また、フードバンクびわ湖たかしまと連携し、フードバンクびわ湖たかしまが実施するフードパントリー事業等に協力しました。

5) ひきこもり者と家族が孤立しない地域支援体制づくり事業の実施

① ひきこもり者や家族のための居場所・活動づくり（よろず畑の開設）

ひきこもり状態にある等、生きづらさを抱える方の居場所や社会参加のための活動の場として、「よろず畑」を開設しました。

週1回程度計46回開設し、8名の若者を受け止めました。

② つながり応援支援者ネットワーク会議

ひきこもり状態にある方やその家族の支援に関わる関係機関の連携会議として開催し、学び合いや意見交換をしました。

第1回	
開催日	11月21日
内容	講義「居場所は何を支援しているか」 講師：立命館大学産業社会学部 准教授 御旅屋達氏
第2回	
開催日	3月10日
内容	居場所の活動紹介 居場所について意見交換

2. 地域福祉権利擁護事業を中心とした総合相談、権利擁護支援

1) 地域福祉権利擁護事業の実施

福祉サービスの利用援助、日常的な金銭管理等の支援により、判断能力が不十分な方の日常生活の自立を支援しました。

契約件数	10件	契約終了件数	12件	増減数	△2件
現契約者数	79人		支援回数	4,203回	

2) 法人後見事業の実施

本会が、法人後見人として後見5件と保佐2件の計7件を受任し、被後見人等の財産管理と身上保護をしました。

法人後見受任件数	7件	支援回数	276回
----------	----	------	------

3) 成年後見サポートセンター事業の実施

① 成年後見制度利用促進のための相談窓口の開設

常設型の成年後見制度利用相談窓口を開設し、親族や支援機関からの相談に対応しました。また、申立ての支援や調査官の聞き取りへの同席、ケース会議への出席等もしました。

相談支援件数	37件
--------	-----

② 成年後見サポートセンター運営委員会

福祉関係機関と弁護士や司法書士や社会福祉士等で、成年後見制度の普及啓発や利用促進、関係機関のネットワークの構築など、センター事業の円滑な実施に向けて協議しました。

特に、今年度は成年後見制度利用促進法に基づく中核機関や地域連携ネットワークの高島市らしいあり方について、重点的に意見交換しました。

開催日	10月14日、3月文書によるヒアリング
内容	○令和4年度事業実施状況報告 ○高島市中核機関および地域連携ネットワークについての意見交換

③ 成年後見制度普及啓発講座

制度の普及啓発のため、専門職向けの講座を開催しました。

開催日	12月9日	参加人数	34人
内容	講演「成年後見制度と具体的な意思決定支援の進め方～事例から学ぶ、権利擁護の視点を日々の支援に活かすポイント」 講師：なかがわ社会福祉事務所 代表 中川英男氏		

4) 総合相談事業

① 無料法律相談所の開設

市民が身近な場所で気軽に弁護士に法律問題等を相談できる機会として偶数月に相談所を開設しました。

開催回数	6回	相談件数	35件
開催方法	偶数月に1回開設し、30分単位で6件までの予約を受け付け、相談を実施しました。		
相談内容	相続、財産、雇用、離婚、近隣トラブル		

② 高島市なんでも相談会の実施

相談者の抱える複合多問題に対し、多職種がワンストップで相談を受け止める機会として開催しました。

開催日	10月7日、2月3日	相談件数	14件
相談内容	相続、遺言、成年後見、不動産、事故、消費契約、借金、労災など		

5) 資金貸付事業

① 生活福祉資金の相談や貸付手続きの代行

低所得者や障がい者を対象とした各種資金貸付制度の利用相談を受け付け、世帯の更生を目指して支援を実施しました。

貸付件数	2 件
貸付資金の内容	教育支援資金、緊急小口資金

新型コロナウイルス感染症の影響による失業や休業のため、生活に困窮する世帯への生活費の貸付を実施しました。

コロナ特例貸付件数	2 4 件
貸付資金の内容	緊急小口資金、総合支援資金

② 法外援護小口資金の相談・貸付

生活困窮状態に陥った方の生活再建のため、貸付を実施しました。

貸付件数	7 件	貸付金額	297 千円
------	-----	------	--------

6) 新たな仕組みのあり方検討

① コアメンバー会議の開催

一人暮らしや夫婦のみ高齢者世帯等が不安なく暮らしていける仕組みを検討していくため、行政関係部署とコアメンバー会議を立ち上げ、今後の取り組みについて、意見交換をしました。

開催日	8 月 30 日、10 月 3 日、11 月 29 日、12 月 19 日
内容	○おひとりさま高齢者の現状と取り巻く問題の共有 ○高島市における現状把握と問題整理の進め方について意見交換 ○関係機関アンケートの実施内容について意見交換 ○アンケート実施結果の共有

② アンケート調査の実施

市内の病院や高齢者入所施設に向け「身寄りのない方の支援に関する課題抽出アンケート調査」を実施し、現状の把握とともに課題の整理を進めました。

3. その他

1) 高島市福祉施設協議会の事務局運営

全体研修のほか、入職 5 年以内の若手新人職員向けの研修交流を実施しました。

また、各法人から選出されたメンバーで、主に地域貢献を軸とした協議会における今後の活動のあり方を検討しました。

V 在宅福祉課

(1) 持続可能な事業体制の構築

介護人材の不足や新型コロナウイルス感染症による活動制限が続く中、利用者に必要なサービスが提供できるよう対応マニュアル等に基づき、徹底した感染予防対策を講じながら、サービスの提供に努めました。

また、利用者に必要なサービスを安定的に提供するには、介護サービス事業の経営強化が必要なことから、現状の課題を分析し、将来のあるべき姿を介護保険事業経営計画（2023年度～2027年度）として取りまとめました。

1. 介護保険事業（介護予防を含む）の実施

1) 居宅介護支援事業

居宅サービス計画を作成するとともに、要支援者にかかる介護予防サービス計画の作成を受託しました。なお、要介護認定調査の受託については、市の取り扱い件数の減少より、年度途中から休止となりました。

区分	今津北	高島	合計	増減
利用延人数	3,309人	2,743人	6,052人	△573
月平均実人数	276人	228人	504人	△48
認定調査件数	34件	15件	49件	(休止)

※前年度

区分	今津北	高島	合計
利用延人数	3,630人	2,995人	6,625人
月平均実人数	302人	250人	552人

2) 訪問介護事業

今津北と高島の2事業所を拠点として、身体介護、生活援助および通院等乗降介助のサービス提供をしました。

区分	今津北	高島	合計	増減
利用延人数	840人	1,066人	1,906人	△174
総利用回数	11,936回	14,704回	26,640回	△2,868
月平均実人数	70人	89人	159人	△14

※前年度

区分	今津北	高島	合計
利用延人数	1,053人	1,027人	2,080人
総利用回数	15,372回	14,151回	29,508回
月平均実人数	88人	85人	173人

※訪問入浴介護事業

訪問入浴介護事業は、令和4年3月31日に事業休止し、その後も再開が見込めないことから、令和5年3月31日で事業廃止しました。

3) 通所介護事業

6か所（新旭サテライトを含む）のデイサービスセンターで、入浴や食事、健康チェック、機能訓練等のサービスを提供しました。

新型コロナウイルス感染症の事業所内での感染拡大により、7月下旬から8月上旬にかけ、きらり高島が7日間、きらり安曇川が4日間の休業をしました。

なお、きらり今津の新旭サテライトは、やすらぎ荘の指定管理期間の終了に伴い、令和4年度末で廃止しました。

(単位：日、人、回)

区分	マキノ	今津北	今津	安曇川	高島	合計
稼働日数	256	257	256	253	252	1,274
利用延人数	975	724	916	526	784	3,925
総利用回数	8,177	5,787	6,852	4,428	6,535	31,724
月平均実人数	81	60	76	44	65	327

※前年度

区分	マキノ	今津北	今津	安曇川	高島	合計
稼働日数	256	255	256	256	255	1,278
利用延人数	1,038	770	1,032	776	926	4,542
総利用回数	8,955	6,221	7,499	6,241	8,143	37,059
月平均実人数	87	64	86	65	77	379

4) 認知症対応型共同生活介護事業

認知症高齢者が、それぞれの残存機能を活かしつつ、穏やかな日常生活が送れるよう支援しました。特に、はあとふる朽木では、新型コロナウイルス感染症を発症した入居者を施設内で療養する対応をしました。

区分	マキノ	朽木	合計	増減
利用実人数	110人	107人	217人	△6
延利用者数	3,197人	3,071人	6,268人	△126

※前年度

区分	マキノ	朽木	合計
利用実人数	113人	110人	223人
延利用者数	3,218人	3,176人	6,394人

5) 小規模多機能型居宅介護事業

3か所の事業所で、「通い」を中心に、「訪問」や「泊り」を組み合わせたサービスを提供しました。

区分	宿鴨	下古賀	上弘部	合計	増減
利用延人数	208 人	277 人	203 人	688 人	12
総利用回数	9,208 回	8,586 回	8,521 回	26,315 回	459
月平均実人数	17 人	23 人	17 人	57 人	1

＜総利用回数は、通い、訪問、泊りの延べ利用回数＞

※前年度

区分	宿鴨	下古賀	上弘部	合計
利用延人数	208 人	239 人	229 人	676 人
総利用回数	9,789 回	7,571 回	8,496 回	25,856 回
月平均実人数	17 人	20 人	19 人	56 人

2. 障がい福祉サービス事業の実施

1) 居宅介護、重度訪問介護事業

障がい者の居宅を訪問し、身体介護、家事援助および通院介助のサービスを提供しました。

区分	今津北	高島	合計	増減
利用延人数	70 人	143 人	213 人	△30
総利用回数	471 回	2,311 回	2,782 回	△2,503
月平均実人数	6 人	12 人	18 人	△2

※前年度

区分	今津北	高島	合計
利用延人数	68 人	175 人	243 人
総利用回数	1,063 回	2,922 回	5,285 回
月平均実人数	6 人	14 人	20 人

3. その他の在宅サービス事業の実施

1) 福祉有償運送事業

道路運送法第79条に基づき、公共交通機関の利用が困難な移動制約者の通院等の支援をしました。

区分	当年度	前年度	増減
利用延人数	593 人	673 人	△80
総利用回数	2,004 回	2,080 回	△76
月平均実人数	49 人	56 人	△7

2) 家族介護教室（あいあいの会）

市から事業委託を受け、高齢者を介護する家族等を対象として、介護知識や技術等を学ぶとともに、介護の悩みや工夫などの情報交換をする教室を開催しました。

区分	当年度	前年度	増減
開催回数	4 回	6 回	△2
延参加人数	4 4 人	59 人	△15

3) しふくの広場

市から一般介護予防事業として委託を受け、65歳以上の虚弱高齢者を対象として、日常動作訓練や創作活動等を行いました。

実施場所	マキノ	今津	新旭	安曇川	高島	合計
活動回数	50 回	47 回	46 回	50 回	49 回	242 回
利用延人数	79 人	57 人	52 人	125 人	129 人	442 人
総利用回数	287 回	210 回	182 回	441 回	473 回	1,593 回
平均利用者数	5.7 人	4.5 人	4.0 人	8.8 人	9.7 人	6.6 人

※安曇川会場には、朽木地域の利用者を含む。

※前年度

実施場所	マキノ	今津	新旭	安曇川	高島	合計
活動回数	49 回	45 回	49 回	48 回	50 回	241 回
利用延人数	99 人	64 人	77 人	136 人	140 人	520 人
総利用回数	368 回	217 回	282 回	441 回	539 回	1,847 回
平均利用者数	7.5 人	4.8 人	5.8 人	9.2 人	10.8 人	7.7 人

4. 経営計画の策定

福祉人材の不足、地域のニーズの変化、介護報酬の改定などにより介護サービス事業の経営に厳しさが増しているため、現在の経営環境を的確に分析し、事業の効率化や機動的な事業展開を図るとともに、働きやすく、やりがいを感じられる職場環境の構築などを目指して、「第1期介護保険事業経営計画」を策定しました。

計画期間は、2023年度から2027年度の5年間で、「人（人材確保・育成・定着）」「物・サービス」「財務」「地域拠点・連携」の4つの視点からそれぞれに事業を計画しています。

5. 職員の育成

1) 介護支援専門員受験準備講座

有資格者の確保と職員のスキルアップを目的として、受験資格のある希望者に対し、模擬試験を中心に勉強会をしました。合格者はありませんでした。(前年度合格者 3 人)

準備講座開催回数	12回
参加実人数	9人
延参加人数	49人

2) 介護福祉士受験準備講座

資格取得者の確保とサービスの質の向上をめざし、受講を希望する職員を対象として、国家試験対策の模擬試験やポイントの解説を行い、3人の職員が合格しました。(前年度合格者 1 人)

準備講座開催回数	3回
参加実人数	3人
延参加人数	9人

3) 専門研修の実施

研修項目	内容
介護技術基礎研修	介護の基本的な考え方と実践(内部研修、4人)
救急救命研修	心肺蘇生法・AED使用訓練(3月に地区単位で実施)
認知症研修	認知症介護基礎研修(9人) 小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修(1人) 認知症介護実践リーダー研修(2人)

6. 感染症や災害への対応力強化

1) 新型コロナウイルス感染症への対応

全国で感染が急激に拡大(第7派)し、きらり高島通所介護事業所でクラスターが発生したことから、事業運営に大きな支障が生じることがないように7月29日に新型コロナウイルス感染症対策本部を立ち上げました。

また、国や県、市の情報を収集し、「職員が新型コロナウイルスに感染した場合等の対応基準」を適時見直すなど感染防止対策の徹底を図りました。

こうした取り組みにより、その後に大きな感染拡大はありませんでした。

① 対策本部会議の開催

6回(7/29、8/1、4、8、17、22)

② 感染者の状況（令和４年度）

（単位：人）

事業所名	利用者	職員	計	備考
はあとふるマキノ		2	2	
はあとふる朽木	2	4	6	
きらりマキノ通所介護	8	5	13	
きらり今津北通所介護	8	7	15	
きらり今津通所介護	4	3	7	
きらり安曇川通所介護	6	3	9	8/1～4 休業
きらり高島通所介護	21	6	27	7/29～8/4 休業
きらり今津北居宅介護支援		1	1	
きらり高島居宅介護支援		1	1	
きらり今津北訪問介護	2	5	7	
きらり高島訪問介護		2	2	
えがお屋本舗上弘部店	6	2	8	
えがお屋本舗下古賀店	9	6	15	
えがお屋本舗宿鴨店	1	2	3	
在宅福祉課、相談支援課		3	3	
計	67	52	119	

2) 委員会の活動

感染症や災害が発生した場合でも、利用者に必要なサービスが安定的、継続的に提供できるよう、委員会が中心となって研修や訓練等を行いました。

委員会	内容
感染症対策委員会	家庭でできる食中毒予防研修（7月、各事業所） 感染症予防シミュレーション訓練（3月、各事業所）
BCP検討委員会	各事業所の業務継続計画について協議

7. 高齢者等虐待防止の取り組み

虐待防止委員会が中心となって、質の高いサービス提供を目指し、研修等に取り組みました。

身体拘束ゼロセミナーの受講	県主催、WEB（6月）
虐待防止研修会への参加	市主催（9月）
虐待の芽チェックリストの実施 （内部研修）	各事業所の課題の抽出（7月） 課題解決への取り組み（10月～） 事例検討会（11月） 取り組み発表会（12月）

8. 福祉サービス苦情受付及び解決状況

2 件の苦情がありました。

区分	ケース①	ケース②
事業名	通所介護	小規模多機能型居宅介護
申出人	住民	家族
受付ルート	苦情受付担当	苦情受付担当
苦情内容	送迎車の運転スピード	サービスが受けられなかった
想定原因	職員の運転	職員の伝達不足
解決状況	円満解決	円満解決

9. その他

1) 高島市介護サービス事業者協議会の事務局運営

滋賀県小規模法人ネットワーク化協働推進事業の採択を受け、人材確保対策や地域ケアの構築等にかかる研修会等を実施しました。